

個別施策評価調書

部長	次長

主管部	科学技術振興部	対象年度	平成27年度
関係部	環境生活部		—
	—		—

基本施策	自然環境を保全・活用する			
個別施策	22 環境意識の啓発			
個別施策の方向	つくば市は筑波山を有し、歴史や気候風土に育まれた集落や里山の景観が形成されている。これらの特色をいかし、つくばに誇りと愛着を育むよう環境教育を推進するとともに、市民と協働による取組を推進し、市全体の環境意識の啓発に努める。			
これまでの取組概要	日常生活における地球温暖化対策について、市民協働の取組推進を図るため、「つくば環境スタイルサポーターズ」を組織し、エコクッキングやグリーンカーテンの普及を始めとした温室効果ガス削減行動プログラムや「エネルギーの見える化実証事業」などのモニタリング調査を行った。こうした取組や啓発を継続して実施した結果、8,000名を超える会員が参加する組織となった。また、環境生活部の事業として、筑波山の自然環境を活用した体験学習を実施し、身近な自然環境の大切さを認識させることができた。			
市民意識調査満足度	H27	29.7%	H29	参考値（第3次総合計画市民意識調査結果） 対象施策名：環境に配慮する人づくりの推進

平成27年度決算及び事業費内訳										(単位：千円)	
H27年度決算	事業費	7,328	人件費	14,160	事業コスト	21,488					
事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源	7,328	

個別施策の代表指標名	指標種別	年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31
つくば環境スタイルサポーターズ会員数（人）	活動結果指標	目標値	5,500	7,500	8,000	8,500	9,000	9,500
		実績	7,001	8,277	—	—	—	—
筑波山自然環境教育観察会参加者数（人）	活動結果指標	目標値	120	100	100	100	100	100
		実績	182	126	—	—	—	—
		目標値						
		実績						

個別施策の総合評価	
総合評価	B 施策の成果が一部確認でき、今後更に推進させるべきである。
自己評価	<p>「環境スタイルサポーターズ事業」については、目標値を上回る会員数にまで拡充することができた。具体的活動としては、ホームページ、SNS、サポーターズニュース等による情報発信、グリーンカーテンキャンペーンやエコ通勤・エコドライブ等の省エネ活動の実践、自然環境教育事業や次世代エネルギーパーク見学ツアー等の環境教育といった活動の推進に取り組んでいる。今後は、これまでの取組結果を十分に検証し、庁内及び関係機関等との連携を強固なものとしながら、環境プログラムの充実やサポーターズポイントの有効活用を図るとともに、環境活動のPRをより一層推進することで、会員の拡充に取り組んでいくことが重要である。</p> <p>「（仮称）環境スタイルセンター事業」については、環境モデル都市・つくばの取組の情報発信や環境教育の拠点として、整備を目指した検討を進めている。今後は、庁内ワーキンググループ、環境都市推進委員会等を活用するとともに、市民・研究機関・民間企業等のニーズを把握しながら、設置による効果や運営体制の検討等の取組を進めていく必要がある。</p>


個別事業調書

個別施策	22 環境意識の啓発														
個別事業名	22-1	つくば環境スタイルサポーターズ事業				担当課	スマートシティ推進課								
事業概要	エコドライブ、グリーンカーテンの普及等によるつくば環境スタイル事業の推進やニュースレターやフェイスブック等による環境関連情報の提供により、会員のエコ・環境意識の向上を図り、行政、市民、事業所が一体となり環境都市つくばを目指す。														
工程表	年度	H26		H27		H28		H29		H30		H31			
	工程	募集・運営													
	事業費(千円)	2,950		5,244		8,552		3,434		3,434		3,434			
事業指標	指標名	サポーターズ会員数(人)				年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
						目標値	5,500	7,500	8,000	8,500	9,000	9,500			
						実績	7,001	8,277	—	—	—	—			
活動実績	会員数：個人8,268人、事業所268事業所 (2月末現在) サポーターズニュース発行回数：4回 プログラム実施回数：14回(サポーターズの集い：1回、グリーンカーテンキャンペーン：1回、筑波山自然環境教育事業：4回、エコ通勤：2回、次世代エネルギーパーク見学会：1回、エコプロダクツ見学会：1回、エコクッキング：2回、エコドライブ体験講習会：2回)														
H27年度決算	事業費(千円)	5,244		人件費(千円)	7,749		事業コスト(千円)	12,993		正職員従事割合(人)		1.00			
									時間外勤務(時間)		120.00				
事業費内訳(千円)	国庫支出金	0		県支出金	0		地方債	0		その他特財	0		一般財源	5,244	
事業の進捗状況	達成：事業全体が当初の計画どおり達成された														
事業の有効性	中：適切な成果が得られている														
事業の効率性	中：適切な費用対効果が得られている														
総合評価	B：成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施														
課題と改善目標	会員数1万人を目指すとともに、会員が参加できるプログラムを充実させる必要がある。														

個別事業調書

個別施策	22 環境意識の啓発													
個別事業名	22-2	(仮称) つくば環境スタイルセンター事業				担当課	スマートシティ推進課							
事業概要	必要性を見きわめた上で、研究成果の発信、最先端環境技術のショールームとするなど、複合的機能を持つ拠点として整備を行う。													
工程表	年度	H26		H27		H28		H29		H30		H31		
	工程	基本方針・機能の検討				基礎調査・基本計画				設計・建設工事				
	事業費(千円)	43		2		6,000		8,000		15,000		100,000		
事業指標	指標名	庁内及び関係者との調整・協議実施回数(回)				年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31		
						目標値	—	4	4	4	4	4		
						実績	—	2	—	—	—	—		
活動実績	関係課とのWGを開催し、来年度に基本計画をつくることを確認した。平成28年度の基本計画策定予算獲得のため、新規事業提案を行った。													
H27年度決算	事業費(千円)	2		人件費(千円)	1,553		事業コスト(千円)	1,555		正職員従事割合(人)		0.20		
											時間外勤務(時間)	25.00		
事業費内訳(千円)	国庫支出金	0		県支出金	0		地方債	0		その他特財	0		一般財源	2
事業の進捗状況	達成：事業全体が当初の計画どおり達成された													
事業の有効性	中：適切な成果が得られている													
事業の効率性	中：適切な費用対効果が得られている													
総合評価	B：成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施													
課題と改善目標	関係課との計画の詳細に関する合意形成や、計画づくりの段階から運営体制の確保などを進めておく必要があるため、庁内ワーキンググループや環境都市推進委員会を活用して、検討体制を確立する。													

個別事業調書

個別施策	22 環境意識の啓発												
個別事業名	22-3	筑波山自然環境教育事業				担当課	環境課						
事業概要	筑波山を中心に市内の自然環境資源を活用することで身近な自然環境について学ぶため、自然環境に関する観察会等を、年間4回程度開催する。												
工程表	年度	H26		H27		H28		H29		H30		H31	
	工程	運用 											
	事業費(千円)	1,983		2,082		2,231		1,104		1,104		1,104	
事業指標	指標名	自然環境教育観察会参加者数(人)				年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
						目標値	120	100	100	100	100	100	
						実績	182	126	—	—	—	—	
活動実績	6/27 筑波山麓のホテル観賞 7/22 筑波山自然探検登山 8/19 霞ヶ浦～桜川～筑波山水源の森へ 10/10 筑波山の森について学ぼう												
H27年度決算	事業費(千円)	2,082	人件費(千円)	4,858	事業コスト(千円)	6,940	正職員従事割合(人)				0.60		
							時間外勤務(時間)				150.00		
事業費内訳(千円)	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源		2,082		
事業の進捗状況	達成：事業全体が当初の計画どおり達成された												
事業の有効性	中：適切な成果が得られている												
事業の効率性	中：適切な費用対効果が得られている												
総合評価	B：成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施												
課題と改善目標	筑波山に関連する市内に残された自然環境を把握することにより、自然が衰退している原因への対策や豊かな自然を保全する意義を考える機会を提供することができる。この事業を継続して実施する中で、市街地に残された貴重な自然林等を体験する事業を企画する。												